



## 『子育てと介護を取り巻く問題』



### 1 介護離職

近年、親を介護するために仕事を辞める人が増えていることが社会問題になっています。厚労省が実施している「就業構造基本調査(2012年)」によると、2011年10月から2012年9月の1年間だけでも、**介護離職をした人は10万人以上**にもものぼるとされています。これだけの人が働けないのは、社会にとって大きな損失という見方があります。

### 2 子育て離職

一方、子育てを理由に離職するケースも大きな問題です。保育園の待機児童問題はもちろんですが、近年は学童保育の不足も注目されるようになってきました。

大東地域には4つの小学校があり、在籍児童は合計588名(平成29年5月時点)いるのに対し、学童保育の事業所は摺沢の1カ所(定員60名)のみです。

子どもの居場所作りを目的とした「放課後子ども教室」は大原、興田、猿沢の3地区にありますが、利用時間は保育園の延長時間より短かく、年間150日程度しか利用できないため、学童保育の代わりとするには不十分です。

最も需要が高いのは小学1年生であり、3月末までは保育園に預けられますが、4月1日から入学するまでの間はどこにも預け先がありません。また、入学してもしば

らくは午前授業など早い時間で下校になりますし、夏休みなどの長期休みもあります。

いわゆる「**小1**」の壁という問題であり、1年生になったからといって急にしっかりするものではないので、親が勤務形態を変えて家にいる時間を長くしたり、仕事を辞めざるを得ない状況になります。

### 3 負の連鎖が生まれる仕組み

介護も子育ても担い手は女性が多いものです。一人の女性の例を考えてみると、子育て中はパートで働き、やっと子どもが大きくなってフルタイムで働けるようになって、今度は孫の子守りや親の介護をするためにまたパートで働いたり、仕事を辞めることになる可能性があります。これでは女性の収入が少ないままですし、勤務時間が短いと厚生年金や退職金を掛けられないため、老後の備えも不十分です。

老後の備えが不十分で、もし自分自身に介護が必要となってしまったら、介護施設は費用が高く、国民年金だけで入れる施設は限られているため、今度は自分の子や孫が介護離職をしなければいけなくなるかもしれません。平均寿命で見ると女性の方が長生きのため、女性は特に老後の備えをしっかりと考えなければいけません。

### 4 老後に備えるために

女性が子育てや介護をしながらしっかりと働ける仕組みを作ることが大切です。フルタイムで働き収入が増えれば生活は安定しますし、景気を刺激し社会にも良い効果を生み出します。また、介護や医療の現場で働く職員は女性が多いため、子どもの預け先があるということは介護や医療の現場を支える仕組みにもなります。

当法人としても、こうした課題を「わが身のこと」と捉え、具体的な解決策を講じていけるよう努めてまいります。

川柳・短歌  
投稿コーナー

わかひ ことば  
若き日に もらえし言葉

かさ え ことば  
『ありがとう』

かさ え ことば  
重ね返しつ 卒寿路歩

(作・牧野久子様)